

学校で育む子どものメンタルヘルス

同志社大学心理学部
石川信一



Doshisha University ©Shin-ichi Ishikawa 1


 国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

2020年-2023年
SDGsの達成に向けた共創的
研究開発プログラム委託研究費

<https://www.jst.go.jp/ristex/funding/solve/index.html>


 SOLVE for SDGs
 プログラム プロジェクト紹介 お知らせ

幼児から青少年までのレジリエンス向上を目指したプログラムと人材育成体制づくり

令和2年度採択 ソリューション創出フェーズ
 研究代表者：石川 信一 (同志社大学 心理学部 教授)
 協働実施者：澤田 広平 (同志社大学 研究開発推進機構 特別任用助教)
 報告書：研究開発実況報告書 ②



3 すべての人に健康と福祉を

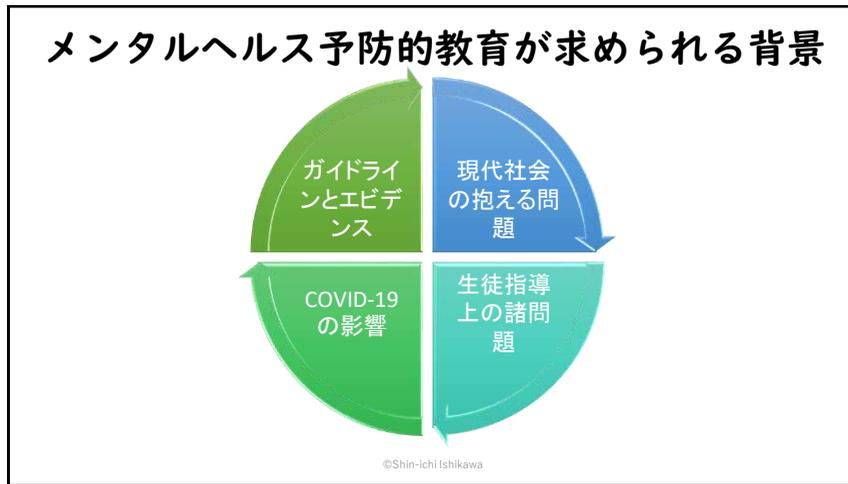


4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう

©Shin-ichi Ishikawa 2

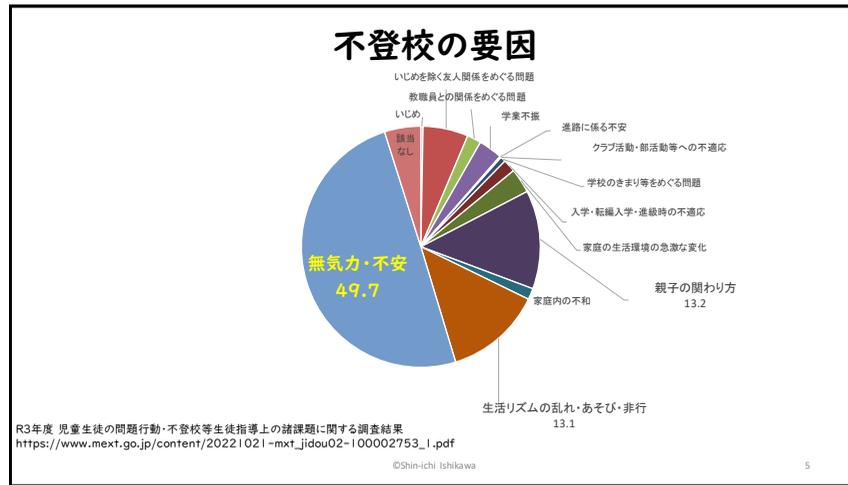


学校の子どもをめぐる問題

- 暴力行為の発生件数 76,441件 (前年度66,201件)
 – 再度増加し、合計件数は**過去2番目**の件数を記録
- いじめの認知件数 615,351件 (前年度517,163件)
 – 再度増加し、合計件数は**過去最多の件数**を記録
- 不登校児童生徒数 244,940人 (前年度196,127人)
 – 小中ともに増加を続けており、**過去最多の人数**を記録
- 自殺した児童生徒数 368人 (前年度415人)
 – 昨年急増し、今年度は**過去2番目**の件数を記録

R3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果
https://www.mext.go.jp/content/20221021-mxt_jidou02-100002753_1.pdf

©Shin-ichi Ishikawa



コロナ禍と子どものうつと不安

COVID-19に関する子どものメンタルヘルス有病率研究のまとめ (Ma et al., 2021; Panda et al., 2020)

コロナ禍における思春期のこどもとその保護者のこころの実態 (2021年12月) 国立成育医療センター(2022)

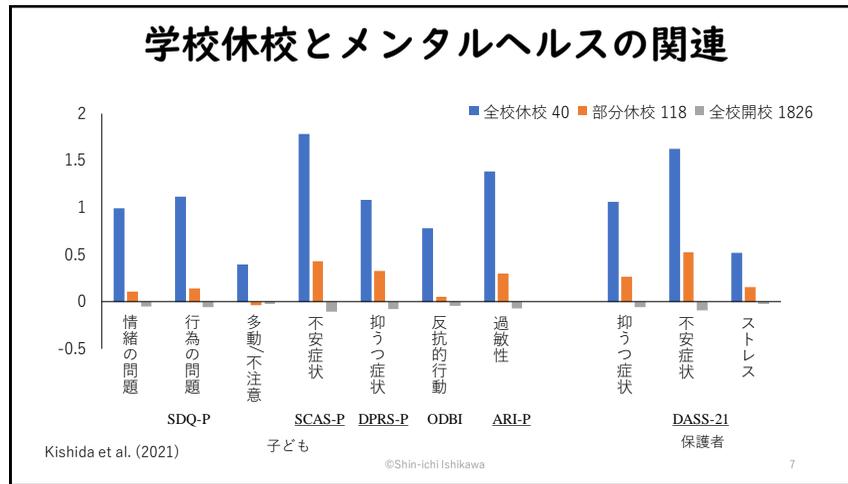
うつの高い子ども
 29.0-41.7%
 (95% CI = 17%-40%)
 (95% CI = 40.8%-42.3%)

**中程度以上の抑うつ症状
中学生**
 12-13%

不安の高い子ども
 26.0-34.5%
 (95% CI = 16%-35%)
 (95% CI = 33.8%-35.1%)

中学生3年生限定
 42%

©Shin-ichi Ishikawa



こころあっぷタイム

(Up2-D2: Universal Unified Prevention Program for Diverse Disorders)
 © 2017 Shin-ichi Ishikawa & Yoko Kamio

学校の先生が

授業形式で

クラスの児童生徒皆に

個別学習と集団体験を通じて

メンタルヘルスの増進のための知識と技術を教える

©Shin-ichi Ishikawa

第8話 「いろいろな考えをしてみよう」

わしの作った発明品をつかって自分のきもちを調べてみるのじゃ!

白いの発明品 No.1

きもちセンサー

きもちセンサーとは...

- ✓ だれでもいろんな「きもち」になるが、「きもち」を「ことば」であらわすことは かんたんなことではないのだ。
- ✓ きもち・センサーをつかうと、自分の「きもち」をピッタリとあらわす「ことば」を選ぶことができるのじゃ!

漫画の一場面: 主人公が「きもちセンサー」を使って自分の気持ちを言葉に変換しようとしている様子。

©Shin-ichi Ishikawa 88 (ひのいくみ) By 日野行望

Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health

Research Article

Changes in self-efficacy in Japanese school-age children with and without high autistic traits after the Universal-Grouped Prevention Program: a single-group pilot study

Takuya Oka^{1,2}, Shin-ichi Ishikawa¹, Aya Sato^{1,2,3}, Kanishi Masaki⁴, Andrew Skidley⁵, Hiroo Watarabe⁶, Hiroki Saitama⁷, Yoshiko Shirai⁸ and Yoko Karita⁹

Journal of Prevention <https://doi.org/10.1087/10935-022-00709-9>

Open Access

中学生のメンタルヘルス問題に対する 診断横断的予防プログラムの有効性の検討

Effect of universal-graded prevention program for diverse disorders for junior high school students

肥田乃梨子¹, 石川信一², 齋藤由希子³, 小塚真由美⁴, Haruki Hida⁵, Shin-ichi Ishikawa⁶, Takako Muraoka⁷, Mariko Ouchi⁸

Development of the child universal-graded prevention program for diverse disorders using electronic devices and examination of its availability

肥田乃梨子¹, 石川信一², 齋藤由希子³, 小塚真由美⁴, Haruki Hida⁵, Shin-ichi Ishikawa⁶, Takako Muraoka⁷, Mariko Ouchi⁸

©Shin-ichi Ishikawa

今後の展望と課題

対象年齢と実施施設の拡大

人材育成と継続可能性

授業時間の確保と位置づけ

©Shin-ichi Ishikawa 11

実装地域と領域

78施設 実施実績 2022年9月

支援学校・学級

通級指導教室

放課後等 デイサービス

就労支援施設

適応指導教室

©Shin-ichi Ishikawa 12

メンタルヘルス予防教育プログラム 「こころあつぱタイム」 タスクフォース養成研修会

タスクフォース養成研修会

不登校や自傷等、子どもたちが抱える心の問題は、全国的にも大きな課題であり、より効果的な予防介入が求められています。本研修会は、プログラムの普及に向けて、当プログラムの実施、指導ができるタスクフォース（※1）を養成することを目的として開催します。
（※1）メンタルヘルス予防教育プログラムを推進する者として、指導者として指導者の心と、この研修会の修了者は、指導者としてプログラムを利用することができます。

- 研修会を修了すると、指導者としてプログラムの利用が可能です。
- 約7.5時間の研修会で、第1回から第12回までの指導方法や、プログラムの概要について学びます。
- 修了者には指導者用テキスト6冊が配布され、タスクフォースとして認定されます。
- タスクフォースの先生方には、継続して研修機会や交流会のご案内をお送りいたします。

日時 2022年 7月30日(土)・31日(日)
 30日(10:00~16:00)/31日(10:00~12:30)
※スケジュール、申込方法等の詳細は募集要項をご覧ください。

講師 同志社大学 心理学部 教授 石川 信一
 研究開発推進機構 特別任用助教 岸田 広平
 研究支援員 小堀 真由子

会場 同志社大学 預託館 305教室、至誠館 32 講義室
 オンライン開催
(今回は対面のオンラインに各自合わせて受講方法を選んでいただけます)

定員 対面 50名
(定員超過) オンライン 50名

対象 国公立小学校、中学校、義務教育学校、
 高等専攻校及び特設支援学校の教職員、
 スクールカウンセラー・心理エッセ
 スクールソーシャルワーカー等

費用 無料 **申込** 申込フォーム（募集）より申込済下さい。
 申込期間：～7月10日(日)締切

©Shin-ichi Ishikawa

子どものこころを支える
科学と人の力

一般社団法人
「青少年のための心理療法研究所」

https://jicap.jp/

©Shin-ichi Ishikawa

ご清聴ありがとうございました

未来を担う子ども達の心の健やかな成長を目指して
困ってから？ その前に教えておきたいことはありますか？

同志社大学 メンタルヘルス 予防

- E-mail : info.mhprogram@gmail.com
- TEL : 0774-65-8188
(平日9時~17時)
- 公式サイト:<http://mentalhealthprogram.jp/>

©Shin-ichi Ishikawa